

第12回 風に関するシンポジウム開催について

1. 期日：1965年11月19日（金）
 2. 会場：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1の7）
 3. 共催学会：日本海洋学会・日本気象学会・日本建築学会・日本航空学会・地震学会・日本地理学会・日本農業気象学会・日本林学会・（幹事学会）日本地理学会
 4. プログラム
 - 9.30—9.40 開会のことば
 - 1) 榎根 勇（東教大理）：東京湾沿岸の偏形樹と海風 9.40—9.55
 - 2) 吉野正敏（東教大理）：横断する風によって生じる谷の中の渦の構造 9.55—10.10
 - 3) 相馬清二・江口 博（気象研）：地形模型実験の乱れの影響 10.10—10.25
 - 4) 今井和彦（原研）：風向別気象要素の統計 10.25—10.40
 - 5) 岡本雅典（気象大）：地面付近の風の垂直変動と風向変動 10.40—10.55
 - 6) 坂上治郎・加藤真規子（お茶大理）：乱流境界層内の熱拡散 10.55—11.10
 - 7) 横山長之（気象庁）：湖面からの熱の鉛直輸送の相似理論 11.10—11.25
 - 8) 日野幹雄（電力中研）：風波の発生における大気と海とのエネルギー過程 11.25—11.40
 - 9) 奥田稔・根本茂・当倉万寿夫（気象研）・宮沢久・清水良次・磯川昭（沖電気）：位相差方式による超音波風速・温度計について 11.40—11.55
 - 10) 井上栄一（農技研）・光田 寧（京大防災研）・花房竜男（京大理）：超音波風速計に関する日米協同観測について 11.55—12.10
 - 11) 高橋浩一郎・広瀬元孝（気象研）：モデル風による動的風圧の数値実験 13.00—13.15
 - 12) 石崎澄雄・桂順治（京大防災研）：風による京都タワーの振動 13.15—13.30
 - 13) 石崎澄雄・成 仁換（京大防災研）：吊屋根の風洞実験 13.30—13.40
 - 14) 石崎澄雄・許 昌九（京大防災研）：風による二つの角柱の相互作用 13.45—14.00
 - 15) 石崎澄雄・光田 寧・桂 順治（京大防災研）：プラストフェンスに関する実験 14.00—14.15
 - 16) 中川憲治（大阪府大）・藤野 勉・有田行雄・志摩徹（三菱重工）：風による煙突の振動とその空気力学的防止装置の研究 14.15—14.30
 - 17) °戸川隼人・石黒登美子（航空宇宙技研）：ランチャー附近の風の影響による小型ロケットの姿勢角および方位角変化 14.30—14.45
 - 18) 佐貫亦男・木村茂・林弘明（東大工）：オーバーシュートしない風向計の実験と提案 14.45—15.00
 - 19) 吉村 稔（東教大理）：積雪期の空中写真から読んだ新潟県佐梨川流域の風の特性的について 15.00—15.15
 - 20) 光田 寧（京大防災研）：京都タワーで観測した風の記録について 15.15—15.30
 - 21) 佐橋 謙（京大理）：新型光電式3杯風速計の試作 13.30—15.45
- 特別講演
1. 小倉義光（東大）：モスクワにおける乱れの国際コロキウムについて 15.50—16.15
 2. 井上栄一（農技研）：コペンハーゲン微細気象学会議の話 16.15—16.40
 3. 河村 武（東京管区気象台）：最近における局地風の研究について 16.40—17.05
- 17.05—17.10 閉会のことば

1月 月例会のお知らせ

主題：太陽活動と放射

会期：1月28日（金） 会場：気象庁第1会議室

申込先：杉並区高円寺北4の35の8 気象研究所高層物理研究部 関原 彊

締切：11月末日